

Q：知覚に問題があり、動きがぎこちない子どもの指導は、どのようにしたら良いでしょうか？

A：からだに触れたものに過敏に反応したり、歩いたり走ったり跳んだりする動きがぎくしゃくしている、スキップや縄跳びができない、ボール運動が苦手であるといった子どもたちは、知覚に問題がある場合が多いです。これは感覚統合に問題があるということで、触覚およびからだの向きや傾きを感じ取る感覚器官と、それに応じてからだを動かす筋肉や関節の連携がスムーズに行われず、自分のからだの動きや方向を把握できなくなっているために、からだの動きがぎこちなくなったり、からだ全体を協調させる運動が難しくなったりしているのでしょう。このような子どもたちには、まず触覚による刺激を促すことが基本となります。触覚受容器への刺激は、脳で処理され、私たちが外界を知るための弁別的な触覚機能へと高まっていきます。また、刺激に対してからだを動かすことにより、立ち直り反応が促進され、身体意識の形成が促されます。さらに、触・圧刺激は、情緒の安定にも効果があります。次の段階として、からだの動きを意識的に言葉で言わせたり、考えさせたり、見せたりしながら、模倣や自らの活動をさせることが必要となります。この日常的な積み重ねが身体意識を養い、全身を使ったスムーズなからだの動きにつながっていくのです。

(前橋 明)

子どもの健康福祉研究所